

茶釜の湯 で結城紬「糸取り」体験

通所リハビリセンター「茶釜の湯」では、国の指定無形文化財・結城紬の行程のひとつである「糸取り（糸つむぎ）」体験を、月2回、糸取り職人の湯本正直先生を招いて行っています。「糸取り」は、乾燥した真綿を引きのばし、一辺を「つくし」という伝統的な道具にかけ、その端からつばをつけ、よりながら糸にする作業です。

今年に入ってから、利用者さまたちにリハビリを兼ねて結城市の伝統工芸に触れられるように開催。「糸取り」には、真綿に触れることでストレスが低減し、喜びの脳波が増加して心が安らぐ効果と、なるべく細く、かつ太さをムラなくつむぐようにして試行錯誤を重ね、手先の機能向上を図るという効果が期待されています。

茶釜の湯では、真綿をかける「つくし」、紡いだ糸をためる「おぼけ」を数台用意し、いつでも作業できる環境を整えています。

結城紬は地場産業だけに、利用者さまの中で「糸取り」の経験者が多く、慣れた手つきで作業をする様子も見られました。湯本先生は「私よりもベテランの方が多い。先輩たちばかりです。」と話していました。

先生と利用者さまは、昔話などの雑談を交えながら、にこやかに楽しい時間を過ごしていました。

平成30年4月11日



「茨城新聞社」の取材を受ける湯本先生と利用者さま



茶釜の湯に用意された「つくし」と「おぼけ」